

授業デザイン（3訂版）

教科	保健体育・理科	科目	保健・化学	授業者	細江 昌子・小澤 雅子
実施日時	令和元年 11月 11日（月） 6時限			対象クラス	2年F組（30人） 化学実験室

【研究授業の目的・ねらい】

①	教育目標の実現や資質・能力の育成に効果的な授業について研修する。
②	新教育課程で重視される教科横断的指導の内容・方法について意見交流する。
③	教室環境の整備に伴い新教材・教具を活用した授業について研修する。
④	AL型授業の展開（インプットとアウトプットのバランス調整）について研修する。
⑤	「深い学び」に繋がる授業の工夫（反転授業、問いの構造化、逆向き設計、ルーブリック）を研究する

【第一段階 求められている結果】 ※ 理解の6側面（説明、解釈、応用、パースペクティブ、共感、自己認識）

単元名	医薬品と健康（2単元 生涯を通じる健康）
⑥ 単元目標	医薬品を正しく使用するということがどういうことか。実験を通して深く理解する。
⑦ 本質的な問い	①健やかな生活を送るために、医薬品をどう使用していく必要があるか。 ②漢方薬の飲み合わせにも注意が必要なのか。
⑧ 理解 動機/鑑	①薬の成分により飲み合わせに問題がある食品がある。 ②薬の形状を変えると吸収のスピードやタイミングが変わり問題がある。 ③漢方薬も①②は例外ではない。
⑨ 知識	⑨医薬品の正しい使用法、化学反応、薬効、飲み合わせ、併用など
⑩ 技術	⑩仮説を立てて考えることができる。実験を安全に、正しく行い仮説の検証ができる。

【第二段階 評価のための証拠】 ※ 該当する項目を枠で括る（網掛けする）又は記入する。

評価のための証拠	パフォーマンス課題、テスト、小論文、振り返りシート、作品、 <u>生徒の応答</u> 、 <u>生徒の質問</u> 、 <u>観察</u> <u>その他</u> （グループでの仮説・実験・考察・発表）
ルーブリック	有 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 無

【第三段階 学習計画】 ※ W（目標）H（関心）E（経験）R（振り返り）E（評価）T（調整）O（組織化）

1 各授業のテーマ（主となる学習活動の内容や問い等）

第1時の内容	生涯にわたる健康づくり
第2～4時の内容	保健制度・医療制度とその活用（医療保険のしくみ）
第5時の内容	医薬品と健康（本時）
第6時の内容	さまざまな保健活動や対策

2 予習（ 有 ・ 無）

内容	①医薬品の種類、分類、
分量	②医薬品の主作用、副作用 ※プリントを使って予習を行う。

3 問いの構造 ※ Q (発問)、I (指示)、A (答え)、W (作業)

問いの種類	指導者の働きかけ	学習者の活動
テーマとしての問い	Q. なぜ医薬品の飲み方は決まっているのか。	
①導入(つかみ)の発問 ②思考拡散の発問	Q. 医薬品を飲むときに注意することは何か? グループで考えよう。	W. グループで話し合い、意見をホワイトボードにまとめる。 A. ①用量や回数・時間を守る。 ②形状を変えない。 ③他の薬品との併用を避ける。 ④食品との飲み合わせに注意する。
③思考焦点化発問	Q. 医薬品を水以外で飲むとどうなるか? グループで考えよう。	W. 実験①、②に関して、グループで仮説を立て、検証・考察する。 A. 薬効が薄れたり消失したりすることがある。
④思考深化洞察の発問	Q. 医薬品の形状を変えるとどうなるのか?	W. 実験③に関して、グループで仮説を立て、検証・考察する。 A. ①薬効が薄れたり消失したりすることがある。 ②患部やそれ以外の部位に悪影響を及ぼす虞がある。
⑤まとめの発問	Q. 今後、医薬品をどう使用していく必要があるか? I. 漢方薬の使用も例外ではないことに触れ留意させる。	A. ①説明書をよく読み、用法・容量・服用時間などをしっかり守る。 ②自分の健康を守るのはもちろん、今回の実験で分かったことを、他の人へも伝える。

【参観者のメモ欄】